

岡垣の教育 岡垣東中学校③

創立から10周年ころまで

岡垣歴史文化研究会 入江 東樹

校歌が作成されたのは、創立初年度の2月だった。校長の貝掛郁光氏はそのことについて「東中10年史」で「…教育活動も軌道に乗ってきたが、校歌の作成が急がれた。予算も限られているし、後世に残るものでありたいことを考慮し、作詞を遠賀郡に関わりの深い栗原一登先生(日本児童演劇協会会長)にお願した。先生は快く引き受けられ、来校していただいた。私どもの意図を聞いていただき、校訓を中心に作詞していただいた。さらに、栗原先生から、作曲には九州交響楽団初代指揮者の石丸寛先生を紹介していただいた。音楽科担当の田中智子先生と博多の西鉄グラウンドホテルで作曲の楽譜をいただいた時は、安堵感で一杯だった。

第1回の卒業式で、校歌を斉唱できたことの喜びは忘れられない。…」と述べている。

栗原氏は、海老津小学校の校歌も作詞された。筆者が海老津小学校に在職しているときだった

「やはぎ」(生徒会新聞)2号で、貝掛校長は「第1回卒業生へ」と題して「…人間の一生の間には、いくつかの節がある。それを乗り越えることによって、更に充実した人間として成長していくのだと思う。今までに学んだものを土台として実行に移してほしい。そして、心豊かな人になってほしい。

明治の先覚者である福沢諭吉先生の『学問のすすめ』はよく知っていると思う。その中で、人間の生き方について、七つの教を述べているので紹介する。

- ①世の中で一番楽しく立派なことは、生涯を貫く仕事をもつこと。
- ②世の中で一番尊いことは、人のために奉仕して、決して恩に着せないこと。…」と述べている。

同紙で、第1回卒業生の浅井文美子さんは「私の夢」の題で「…私には看護婦になりたいという大きな夢がある。私の父は、私が小学校6年の時に、病気で亡くなった。父が入院していた時、看護婦さんたちがとても良くしてくれるの

で、すごいなと思った。

時々、テレビで、生まれながらの障害をもっている人たちや困難な病気で苦しんでいる人たち、他国で栄養失調で苦しんでいる人たちを見て、この人たちに何かしてあげられたらいいなと思う。看護婦は責任の重い仕事だと思うが、優しく思いやりのある看護婦になりたいたい、胸の中が熱くなるような夢となっている。…」と述べている。※浅井さんは念願かなって、現在、福岡市で看護師として活躍されている。

「東中PTA広報」第2号で、初代会長の野田健治氏は「1年間を顧みて」と題して「…会長の大役をいただいたが、何もかも初めてで、自身自身の勉強に終始した感じがする。

研究会や講演会に参加して、親が変われば子が変わる、自分が変われば人や周囲が変わることを学んだ。

12月に行われた九州PTA研究福岡大会に参加した。私の参加した分科会ではPとTとの相互理解の必要について、具体的な活動が発表された。本校では、開校初年度でもあり、PとTのコミュニケーションを

を図る機会が少なかったことを反省している。

昨年6月の総会で、補導、成人、広報の3つの委員会を立ち上げた。補導委員会では、夏や冬の巡回指導、成人委員会では、各種講演会や両親学級の催し、広報委員会では「東中PTA広報」等の発行など、いろいろな活動していただいた。末尾だが、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆様のご健康とご発展を祈念します。…」と述べている。

校歌

作詞 栗原一登
作曲 石丸寛

一 明るい窓に 野は広く
匂う土の香 地は緑
はるかに響く 海の鳴り
流れる雲よ

「探究」は 字ぶ喜び
岡垣東 理想あり

二 歴史の頁に 松原は
三里を背く 強く耐え
父祖の願いを 明日に継ぐ
季節の風よ

「剛健」は 生き抜く力
岡垣東 誇りあり

三 つばみはいつか 花と咲き
果実実る 如の幸
希望の歌の わくところ
光の町よ

「誠実」は 生命の証
岡垣東 友とあり